

令和元年度 学校評価書（前期）

学校教育目標

豊かな人間性を育み、たくましく生き抜いていこうとする生徒の育成

〈今年度の重点目標〉

集団を高め自己を伸ばす振舞いができる生徒の育成
～「共感」「規律」をキーワードとして～



令和元年 9 月 18 日
大館市立北陽中学校

V 評価

ア 学校運営の状況

自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	目指す方向が共通理解され取組も組織的で意識が高く成果も顕著
	良好		4	目指す方向が共通理解され取組も組織的で成果が多く見られる
	おおむね良好		3	目指す方向が明確で一定の取組が行われており成果も見られる
	やや不十分		2	目指す方向がやや不明確で取組もばらつきがあり成果が安定しない
	努力を要する		1	目指す方向が不明確で取組体制や取組方に解決すべき課題が多い

I 組織運営

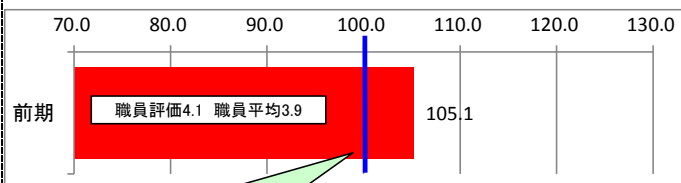
学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
「共感」「規律」をキーワードに特色ある学校づくりが計画的・組織的に推進されている。	前期	おおむね良好	<ul style="list-style-type: none"> ・副担任生を活用して連携の強化を図っていることがよい。 ・プロジェクトを作って、一段先を見据えて新しい教育目標を作ろうとしていることが画期的である。 ・「共感」「規律」「無駄に戦隊」「MONDAMEN」などキーワードを作り目指すところを明確にしていることで、生徒にも職員にも浸透している。
	年度		
自己評価の概要と学校の改善策	<p>○開校5年目を迎え、今年度は「共感」「規律」をキーワードに、本校の強みである集団としての力を生かしながら北陽中生としての振る舞いに磨きをかけている。職員は式辞や職員会議での校長先生のお話、校長報「北陽魂」に込めた思いを受け止め、様々な場面で活かしている。そのため、1学期は3年生を中心に北陽中生の思いを一つにして活動する姿が見られた。週1回実施する学年主任会は、子どもたちにきめ細やかに寄り添い、学年間の連携を図る上で更に効果的になるように努めていきたい。また、副担任制のよさを子どもたちが更に実感できるように、学年内での連携・工夫を図ってきたい。</p> <p>○事務職員が進行状況の資料を回覧するなどいつも丁寧に支援してくれるので、事務処理負担の軽減がなされている。事務職員に任せっきりが当たり前にならないよう連携するという意識を高めていきたい。今後も予算執行、設備管理、設備補修等が迅速かつ正確に行われるように努めていきたい。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
1 組織的運営体制の確立	(1) 運営方針等の浸透	三役会(校長, 教頭, 教務主任)と運営委員会の実施	3	
	(2) 学年部組織の強化と連携	副担任制の維持及び学年主任会の実施と効果(手応え)の検証		
2 諸会議の効果的な運営	(3) 月1回の職員会議運営の工夫	提案記録の作成と提案時期の検証	3	
	(4) 運営課題解決プロジェクトの実施	プロジェクトチームの立ち上げと課題解決		
3 事務職員との連携	(5) 事務処理の効率化・適正化と設備管理	事務職員との連携による事務処理負担の軽減と指導時間の確保	4	
		定期的な点検による設備管理及び予算管理の適正化		

[1]に関連するデータ

(1) 運営方針等の浸透

- 校務部会、運営委員会、職員会議が機能的に推進され、各担当から見通しをもった提案が行われていたか。また、重点である「集団を高め自己を伸ばす振る」ができる生徒の育成を目指す働きかけを行っていたか。



グラフは、職員アンケート全項目の評価平均値を100としたときの、当該項目の評価指数を表している。つまり、指数が100を超えていれば、職員は他の施策よりも良好と判断しており、100に届かない場合はその逆ということになる。

【職員アンケート自由記述】

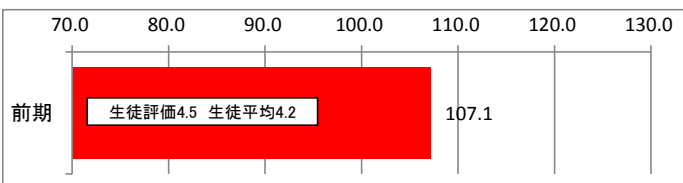
○全職員参加の教育目標策定ミーティングは、これまでの北陽職員の苦勞や思い、現在の全職員の思いや考えを伝え合い、今後を考える貴重な機会となった。今後も日々の思いを伝え合うことを大切にしていきたい。

【アンケート種別】 ○生徒 □保護者 ■教職員

【5段階評価】 5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや不十分 1:不十分

(2) 学年部組織の強化と連携

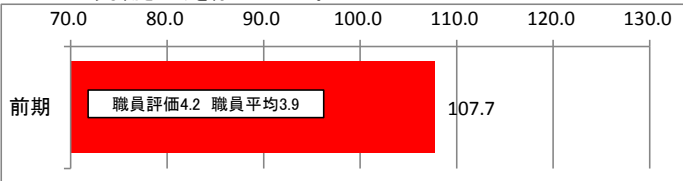
- 担任と副担任は協力して、学級のために指導や支援をしてくれましたか。



[2]に関連するデータ

(3) 月1回の職員会議運営の工夫

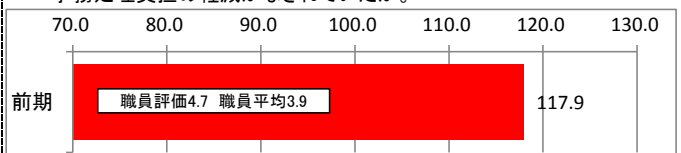
- 管理職や分掌部長が、職員会議案件について各担当から見通しをもって提案するような働きかけを行っていたか。



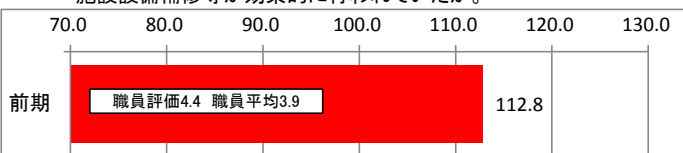
[3]に関連するデータ

(5) 事務処理の効率化・適正化と設備管理

- 事務職員との連携により、私費会計の適切な執行・事務処理負担の軽減がなされていたか。



- 配当予算が適切に周知され、消耗品の調整及び施設設備補修等が効果的に行われていたか。



ア 学校運営の状況

II 教師の研修

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の教育活動のレベルアップのために、教職員の研修が活発に行われている。	前期	おおむね良好	良好
	年度		
自己評価の概要と学校の改善策	<p>○職員アンケート自由記述や数値から、「各教科等の特質に応じた見方・考え方を鍛える授業実践」について、各教科担当が悩みながらもまさに研修中ということが見て取れる。「見方・考え方を鍛える授業」を実践するためには、教師の専門的教材研究と、授業のコーディネート力が不可欠である。教科の枠を越えた全職員による指導案検討会、指定訪問研究会、校内研修会、授業を見合う会等の機会をとらえ、これからも研修に励む教師集団でありたい。</p> <p>○「諸検査データの分析と活用」については、NRTや全国学テ結果の分析が1学期中にできなかった。夏期休業中の分析をもとに、2学期以降、改善に向けた取組をしていく。</p> <p>○昨年度から、校内研究会等研修会では、「全員一人2回以上発言」を合言葉に、主体的な姿勢で会に臨むことを全職員が心がけてきた。若手の先生が「無駄に戦隊」、中堅層が「MONDAMEN」というネーミングのもと、研究会では熱心で活発な意見交換が行われている。継続していきたい。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
4 課題解決のための研究推進	(6) 学び合い高め合う授業づくり	各教科等の特質に応じた見方・考え方を鍛える授業実践 諸検査データの分析と活用	3	
5 研修の実施及び活用	(7) 「チーム北陽」の資質向上を目指した研修の充実	「無駄に戦隊」と「MONDAMEN」が生きる研修会の工夫	3	

(○生徒 □保護者 ■教職員) ※5段階評価[5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題]

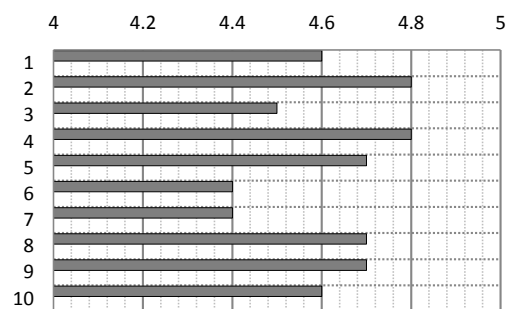
[4に関連するデータ]

- 各教科等の特質に応じた見方・考え方を鍛える授業実践は、一人一人の深い学びにつながっていたか。
- 諸検査データの分析と活用がなされて、生徒の確かな学力の定着を図ることにつながっていたか。
- 「授業のあいさつ」「聞く態度」「話し方」など、学習の約束を意識して学習できている。
- 自分の思いや考えを相手にしっかり伝え、話し合いながら学習を深めている。

R1前期	年度
3.3	
3.5	
3.7	
3.6	

○生徒による授業評価

- 1 チャイム前学習を行っていましたか。
- 2 学習課題（めあて）は、学習することやゴールがわかりやすいように示されていましたか。
- 3 先生の質問に対して、自分の考えや思いをもちましたか。
- 4 黒板には、50分ものさしや学習内容がわかりやすく示されていましたか。
- 5 発表や話し合い、意見交換などの友達との活動がありましたか。
- 6 質問や友達の意見を受けて、わかりやすく伝えようとしていましたか。
- 7 自分の意見と比べたり、深めたりするような聞き方をしていましたか。
- 8 学習したことをまとめたり、身に付けたことを使って練習したりする時間が確保されていましたか。
- 9 学習内容はわかりやすいですか。
- 10 あなたは、意欲的に授業に取り組んでいますか。



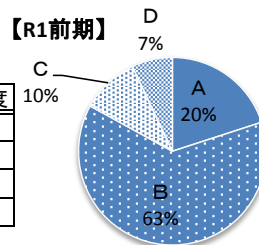
生徒の授業評価 全教科の平均値【R1前期】

□学校での教科指導について、お子さんはどのように言っていますか。

- A どの教科も十分指導されている。
- B どちらかというようによく指導されている。
- C どちらかというようにあまりよく指導されていない。
- D どの教科ももっとよく指導してほしい。

H30前期	R1前期	年度
A 22	A 20	
B 64	B 63	
C 9	C 10	
D 5	D 7	

(単位: %)



[5に関連するデータ]

- 「無駄に戦隊」と「MONDAMEN」が生きる研修会になっていたか。

R1前期	年度
4.1	

【職員アンケート自由記述より】

- ・どの研究会よりも北陽中の研修会が有意義だと誇りに感じる。
- ・「無駄に戦隊」はがんばって発言している。
- ・「MONDAMEN」も、もっとがんばらないと、と思う。
- ・先日の研究会・研究授業(数学・理科)が参考になった。
- 見方・考え方を鍛える授業実践に取り組んでいきたい。

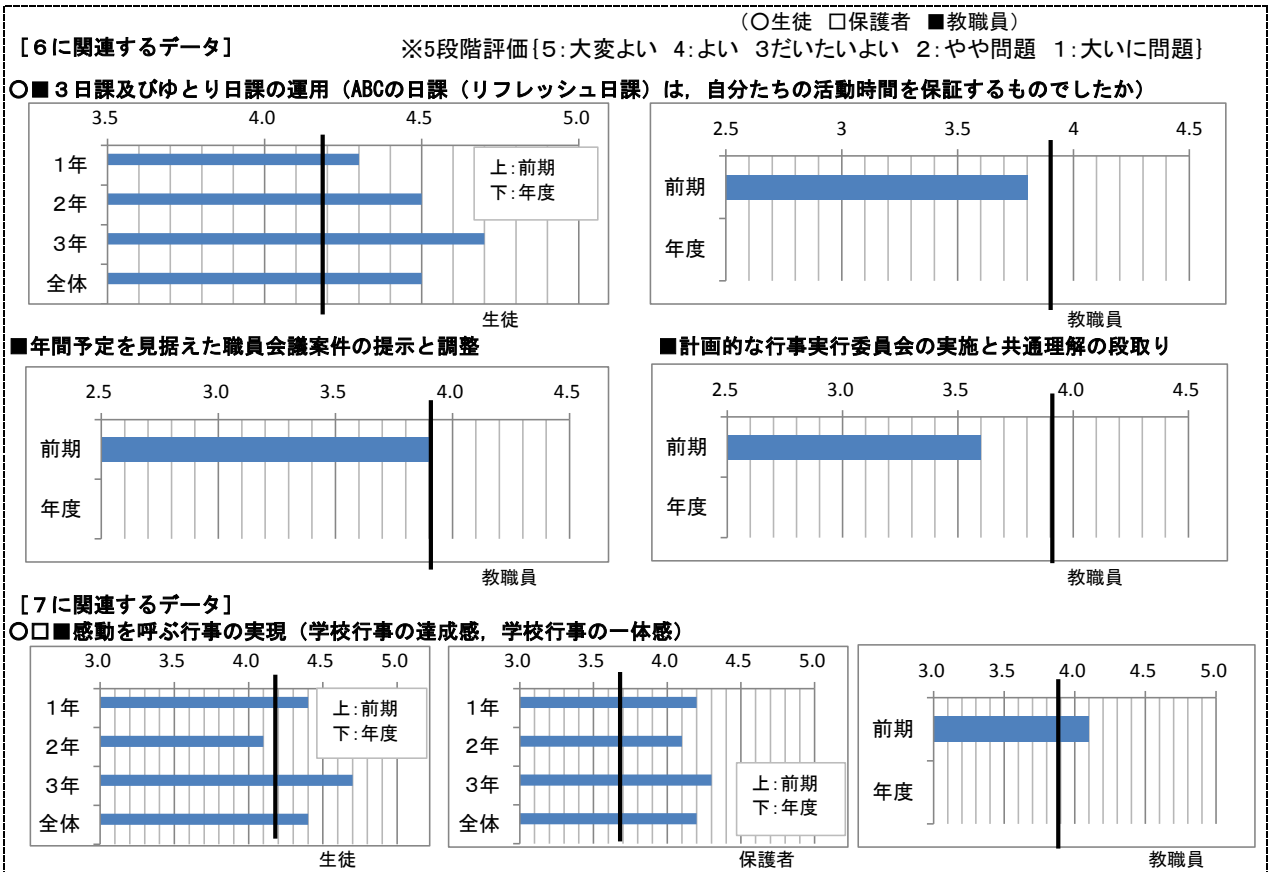


ア 学校運営の状況

Ⅲ 特色ある教育活動

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
地域に根ざした特色ある教育活動に、誇りと気概をもって取り組んでいる。	前期	おおむね 良好	おおむね 良好	・実施しているであろう特色ある行事や活動をもっとアピールすることで、生徒にも保護者にも意識化させていきたい。
	年度			
自己評価の概要と学校の改善策	○校長が「本業の時代」と位置づけている「学校自立期」2年目となった。新しい学校目標策定を控え、「北陽中の本質とは何か」という問いを発しながら、生徒も教職員も一体となって取り組んでいる。アンケートの結果を見ると、職員の項目が昨年度より低くなっており、職員減に伴って動きにスムーズさを欠いたり、共通理解が不足していたりしたことの影響と考えられる。一方、保護者や生徒のアンケートの数値は向上しており、北陽中の活動の良さを保護者や生徒が自覚できていることの現れとみられる。 ○後期の取組として「声を上げて確認」を挙げたい。連絡事項などを文書で伝えてはいるものの、そのことを全体で確認する時間はとりにくい現状にある。研修会では「無駄に戦隊」「MONDAMEN」の取組が効果を上げているので、そのことを普段の教育活動全般で生かしていけるようにしたい。「聞こえるように声をかける」「不明な点は積極的に聞いて確認する」など、基本を徹底して、後期はよりスムーズに活動が行えるように支援したい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
6 特色ある教育課程の編成	(8) 生徒の活動を支える日課の工夫	2日課及び特別日課の運用	3	
	(9) 教育活動を支える見通しある提案	年間予定を見据えた職員会議案件の提示と調整		
7 学校行事等の計画	(10) 感動を呼ぶ学校行事の実現	計画的な行事実行委員会の実施と共通理解の段取り	3	
		地域連携活動の継続(教育課程及び行事予定への位置付け)		



イ 生徒の状況

IV 主体的な学習態度・確かな学力

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
生徒が主体的に学習に臨み、基本的学習習慣と確かな学力を身に付けるように取り組んでいる。	前期	おおむね 良好	おおむね 良好	・学びの「おもしろ化」によって、学習への興味・関心を高めている。 ・学び合いについての生徒の意識は高く、授業でも意欲的に話し合っている。 ・確かな学力向上のために読書活動の時間の確保と意欲を高める工夫に
	年度			
自己評価の概要と学校の改善策	○「主体的な学習態度」については、昨年度に達した一定の基準からさらに向上させるために、振り返る視点を焦点化した学習がんばり表の活用、個々のがんばりを認める「学習goodさん」紹介の方法の改善、家庭学習の手引きを活用した指導、「家庭学習goodさんコーナー」の設置などを実施した。生徒や教職員には成果が少しずつ見えてきているものの、保護者の評価は低い。家庭や地域での生徒の姿にも着目しながら、今後の手立てを工夫したい。 ○「授業の充実」については、特に学びの「おもしろ化」の評価が低い。研修部と連携し、まずは積極的に日常の授業を公開し合う機会を増やし、職員全体で切磋琢磨したい。 ○「生徒の力を高める諸活動」のドリル学習については、昨年度生徒の意欲が高まった「全学年統一PUD」を1学期に実施した。内容は小学校の漢字や計算だったため、特に1年生の学習状況の実態把握もできた。読書については、国語科と文化委員が連携し、2学期に全学年統一の本を読む活動を行う予定である。			

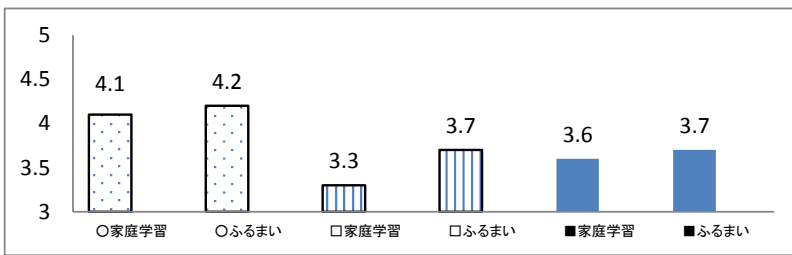
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
8 基本的学習習慣	(11) 主体的学習態度の育成	授業における「ふるまい」の提示と定着 家庭学習充実のための働きかけ(PUN,家庭学習の手引き等)	3	
9 確かな学力	(12) 授業の充実	1単位時間の効果的なコーディネート(50分ものさし等)と学習形態の工夫 専門的教材研究に基づいた学びの「おもしろ化」	3	
	(13) 生徒の力を高める諸活動	ドリル学習、朝読書の実施		

(○生徒 □保護者 ■教職員)

※5段階評価 [5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題]

[8に関するデータ]

主体的学習態度の育成(左:前期, 右:年度)

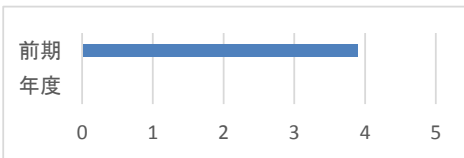


家庭学習goodさんコーナー

[9に関連するデータ]

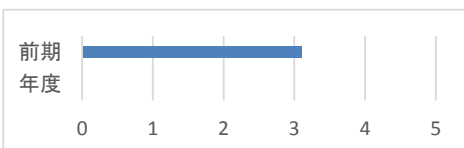
授業の充実

■1単位時間の効果的なコーディネートと学習形態の工夫



教科アンケート	前期	年度
チャイム前学習を行っていましたか。	4.6	
学習課題(めあて)は、学習することやゴールが分かりやすいように示されていましたか。	4.8	
先生の質問に対して、自分の考えや思いをもちましたか。	4.5	
黒板には、50分ものさしや学習内容がわかりやすく示されていましたか。	4.8	
発表や話し合い、意見交換などの友達との活動がありましたか。	4.7	
質問や友達の意見を受けて、分かりやすく伝えようとしていましたか。	4.4	
自分の意見と比べたり、深めたりするような聞き方をしていましたか。	4.4	
学習したことをまとめたり、身に付けたことを使って練習したり、振り返ったりする時間が確保されていましたか。	4.7	
学習内容は分かりやすいですか。	4.7	
あなたは、意欲的に授業に取り組んでいましたか。	4.6	

■学びの「おもしろ化」



生徒の力を高める諸活動

	前期	年度
○生徒	4.3	
■教職員	3.8	

イ 生徒の状況

V 自主的・自律的な生活、望ましい生活習慣

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
生徒一人一人の心身の状態に目を向けながら、明るく心こもった挨拶など規律ある落ち着いた生活を実現している。	前期	おおむね良好	<ul style="list-style-type: none"> ・「あやめ運動」によって、あいさつや規律への生徒の意識は高く実践力も高い。 ・メディアコントロール運動の取組によって、さらに生活習慣の改善を図りたい。 ・生徒や保護者の悩み、困りごとに対応するための機能を一層充実したい。
	年度	おおむね良好	
の自己評価の概要と学校	<p>○「あやめ運動」については、委員会活動等で意識をした活動がなされていた。今年度から「A-1グランプリ」という、挨拶の良かった生徒や団体を定期的に伝える活動をしている。また、「あさこえ運動」も毎朝継続して取り組んでいる。このことが生徒アンケートの数値に表れている。一方、北陽中が求めている挨拶ができていない生徒がいたり、校外での挨拶の質の低下が感じられたりしている。いつでも、どこでも、何度でも元気で明るい挨拶ができるように、働きかけていきたい。相手に対する礼儀と感謝の気持ちを表す大切で必要ないであること、部活動や諸行事などを活用して指導していきたい。</p> <p>○「メディアコントロール」については、テスト勉強のための部活動休止期間にシートを利用して働きかけているが、メディアコントロールができていないとは、言いがたい。学級担任、部活動担当、保護者が様々な機会に何度もメディアコントロールの大切さを継続的に伝える必要がある。そうすることで、生徒の自律心が高まると考えている。</p> <p>○生徒の安全については、関係機関との連携により、自転車通学の登下校指導、毎朝の校門指導、クマの出没情報の迅速な情報提供など、安全対策が図られた。今後も継続して取り組み、生徒の安全確保に努めていきたい。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
10 規律ある学校生活	(14) 集団生活のきまりの理解と遵守	日常生活における「ふるまい」の提示と実践意欲の喚起(共通実践事項等) 地域・保護者や近隣小学校と連携した安全指導の推進や事後指導の充実	3	
11 心身の健康の保持増進	(15) 健全な生活習慣の育成	メディアコントロール運動を中心とした望ましい生活習慣の定着	3	
12 教育相談の実践	(16) 日常的・積極的な教育相談と生徒理解	教育相談の充実による相談環境の確立 多面的な生徒理解と事例の見立てに係る研修の推進	3	

(○生徒 □保護者 ■教職員)

[10に関連するデータ] ※5段階評価{5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題}

[10] 集団生活のきまりの理解と遵守

- 「あいさつをしよう」いつでも、どこでも、誰に対しても、明るくさわやかなあいさつをすることができましたか。
- 「や」くそくを守ろう→学校生活のきまりや約束などを、しっかり守ることができましたか。
- 「め」あてをもと→いろいろなことに、めあてをもって取り組む事ができましたか。
- 「あやめ運動」(元気なあいさつ、やくそくを守る、めあてをもって)により、規律ある学校生活が実現していると思いますか。
- 警察などの関係機関や地域・小学校と連携した安全指導が、効果的に進められていると思いますか。
- 日常生活における「ふるまい」の提示と生徒指導共通実践事項の共通理解が図られ、生徒の自律心を育むことにつながっていたか。
- 安全指導を推進する上で、関係機関、地域・保護者、小学校などと連携を図っていたか。

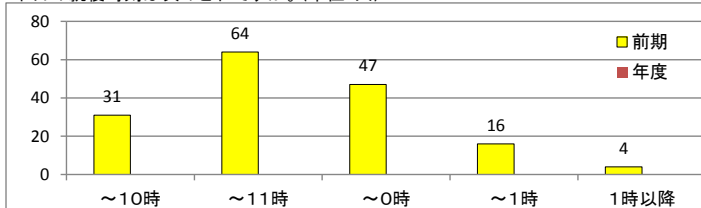
R1前期	年度
4.3	
4.4	
4.3	
3.6	
4.0	
3.4	
4.2	



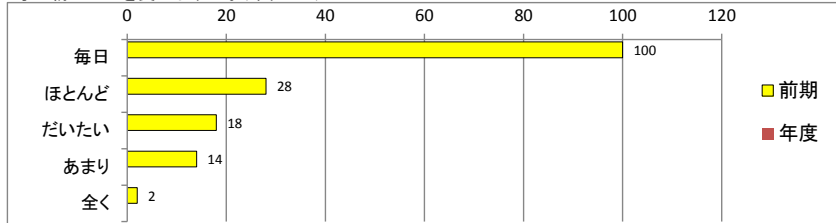
[11] 健全な生活習慣の育成

(15) 健全な生活習慣の育成

○ 平日の就寝時刻は次のどれですか。(単位:人)



○ 毎日朝ごはんを食べますか。(単位:人)



- 家庭でのメディアコントロールの働きかけは適切ですか。
- 「すこやかチャレンジカード」を活用しての学校の取組みは、「早寝、早起き、朝ごはん、歯磨き、メディアコントロール」の意識化に役立っていますか。
- 「メディアコントロール運動」の取組みが、「早寝、早起き、朝ごはん」の定着につながっていたか。

R1前期	年度
3.0	
3.2	
2.8	

[12] 日常的・積極的な教育相談と生徒理解

(16) 日常的・積極的な教育相談と生徒理解 (17) 理解と指導をつなぐ「見立て力」の向上

- 悩み、困りごとを、友達や先生に相談できる雰囲気がつくられていると思いますか。
- より良い学級、学年にしようと努力できましたか。
- 担任や副担任、養護教諭、SC等による教育相談が機を逃さずに行われていたか。
- 多様な手立てによる生徒理解と事例の見立てに係る研修が行われていたか。

R1前期	年度
4.2	
4.3	
3.9	
4.0	

イ 生徒の状況

VI 思いやりの心,たくましい心

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
一歩前に出て積極的に活動に取り組み、お互いの良さを認め合い、協力し合いながら豊かな人間性を育てている。	前期	良好	・各学級ともに明るく伸び伸びとしており、個を認め合う雰囲気豊かな心を育てている。 ・先生と生徒の関係もよく、信頼関係が構築されている。
	年度	良好	
自己評価の概要と学校の改善策	○朝の会では、日直のスピーチやスピーチに対して質問する場面を作っている。帰りの会では、生徒の自発的な行為を紹介する「ちよいボラ」、授業中に頑張った生徒を紹介する「学習goodさん」など、お互いの良さを認め合う場を意図的に設定することができた。今後は学年集会でも、共感し合える場を設定していきたい。 ○副担任制の活用は、職員数の減少で昨年度より機能していないが、提出物のチェックや生徒の見届けなど連携を密に行っていきたい。 ○学校行事は、学級委員や実行委員、各リーダーが中心となって取り組み、成功させることができた。入学して間もない1年生にとっては日程的に大変だったが、限られた時間の中で主体的に計画を立て、目標に向かうことができた。 ○生徒総会の全校協議では、学年にわたったことで多くの生徒が意見を発表することができた。委員会活動については、活動がマンネリ化している傾向にある。「北陽魂のために、自分たちには何が出来るか」という主体的な意識をもたせ、「あやめ」を焦点化した取組を行っていきたい。 ○大会前や長期休業前にキャプテン会議を定期的に行った。担当教員とキャプテンが「北陽魂の心得」(共通実践事項)を確認し、部員全員に内容を伝えて理解させることにより、部活動に向かう意識が高まってきている。		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
13より良い集団生活を目指す学級・学年活動	(17) 本音で語り合える学級・学年づくり	共感力の向上を目指した学級経営の推進(副担任制度の活用と学級活動の充実)	4	
	(18) 学校行事を生かした「高め合う学級・学年づくり」	リーダーを中心とした学級・学年集団の育成(リーダーシップ、フォローアップの育成)		
14集団力を高める自主的・自立的諸活動	(19) 気概にあふれた学校行事	「北陽魂」の意識化と生徒会主体の学校行事づくり	4	
	(20) 「あやめ運動」を通じた創造的委員会活動	「あやめ運動」を基軸とした日常活動の創意工夫		
	(21) 仲間を大切にしたい規律ある部活動	「北陽魂」を旗印とした、部活動運営における共通実践の徹底		

(○生徒 □保護者 ■教職員)

[13]に関連するデータ ※5段階評価 [5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題]

(17) 本音で語り合える学級・学年づくり	R1 前期	R元 年度
○担任と副担任は協力して、学級のために指導や支援をしてくれましたか	4.5	
○お互いの良さを認め合いながら、協力して学級づくりに励むことができましたか。	4.5	
○朝の会や帰りの会で活躍する場面がありましたか。	4.3	
■副担任制を活用した学級経営と学級活動の充実が図られていたか。	3.8	



生徒総会で意見を伝えようとする生徒

(18) 学校行事を生かした「高め合う学級・学年づくり」

○より良い学級、学年にしようと思えましたか。	4.3	
○生徒総会やフレンドリー集会では、みんなと意見を出し合い、考えを深めることができましたか。	4.2	
■学校行事を生かしながら、リーダーを中心とした学級・学年集団の育成が図られていたか。	4.2	

[14]関連するデータ

(19) 気概にあふれた学校行事

○学校行事での達成感ほどの程度でしたか。	4.4	
□学校行事は、各テーマのもと、学級や学年、全校のまとまりが感じられる活動となっていましたか。(運動会、修学旅行、校外学習、激励会など)	4.2	
□学校行事を通して、学校のねらいや生徒の思いが伝わりましたか。	3.9	
■「北陽魂」を意識させながら、生徒会主体の学校行事が創られていたか。	4.1	



生徒・地域が一つになった運動会

(20) 「あやめ運動」を通じた創造的委員会活動

○他の人の役に立つ行動や他の人を思いやる行動ができましたか。	4.3	
○より良い学校をつくろうと、生徒会活動に積極的に取り組みましたか。	4.2	
■日常の委員会活動では、「あやめ運動」を意識しながら創意工夫が行われていたか。	3.4	



地域の方と小学生と一緒に防災活動

(21) 仲間を大切にしたい規律ある部活動

■「北陽魂」を旗印とした部活動運営がなされ、共通実践事項の徹底が図られていたか。	4.2	
--	-----	--

◇8月の地域防災活動への参加状況(人) ◇1月の地域防災活動への参加状況

生徒	地域住民	小学生	合計
144	155	75	374

生徒	地域住民	小学生	合計

ア 学校運営の状況

Ⅶ 保護者・地域との連携

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
保護者地域との信頼関係を積極的に構築するとともに、具体的連携の基礎を築いている。	前期	良好	良好	・学校報の全戸配布の継続により、学校の活動の様子はよく伝わっている。 ・「ようこそ先輩」の実施や子どもハローワークへの参加などによって、ふるさとのよさに気付き、将来の目標をもつことにつながっていると思われる。 ・夏の防災活動は、本来の趣旨を見直した活動の工夫を図りたい。
	年度			
の自己改善評価の概要と学校	○学校報を全戸に配布する取組は、学校の活動状況を的確に伝えたり、保護者・地域と学校のつながりを強したりする上で効果的である。保護者や地域の方々が、北陽中生のよさや頑張りを北陽中生の「振舞い」を通して更に実感できるように各学年バランスよく記事として取り上げていきたい。 ○6月5日(水)には、キャリア講演会「ようこそ先輩」を開催し、社会で活躍している卒業生の佐藤龍一夢さん(コウライザー)、6月21日(金)の1学期PTA教育講演会では、鷹巣中学校の養護教諭 藤嶋先生、7月2日(火)の地域防災会議では、文部科学省の森本安全教育調査官からのご講話を通して、着実にふるさに根ざして生きる思いを高めることができた。子どもハローワークに参加する生徒も昨年度より増加している。8月4日(日)に実施した夏の防災活動は晴天にも恵まれ、保護者・地域の方が合計で155名(昨年は140名)参加してくださった。			

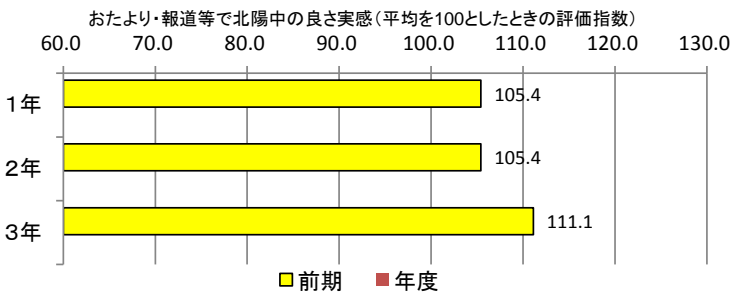
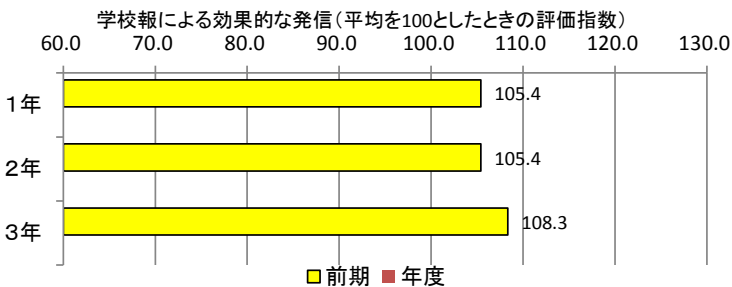
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
15 情報の発信の工夫	(22) 学校と家庭・地域をつなぐ諸通信の発行	学校報配布システムの構築と運用による情報発信	4	
16 地域の教育力の活用	(23) PTA活動の活性化	PTA活動への積極的支援と働きかけ	4	
	(24) 職場体験・子どもハローワークの積極的活用	子どもハローワークの推奨		
	(25) 防災活動や地域行事への積極的な参加と貢献活動	防災活動を柱とした地域ボランティアの推進		

[15に関連するデータ]

(22) 学校と家庭・地域をつなぐ諸通信の発行

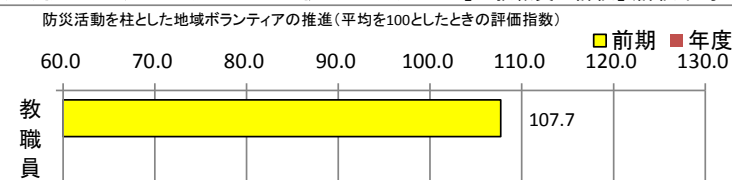
【保護者の評価】

(評価平均 1年3.5 2年3.5 3年3.5)



[16に関連するデータ]

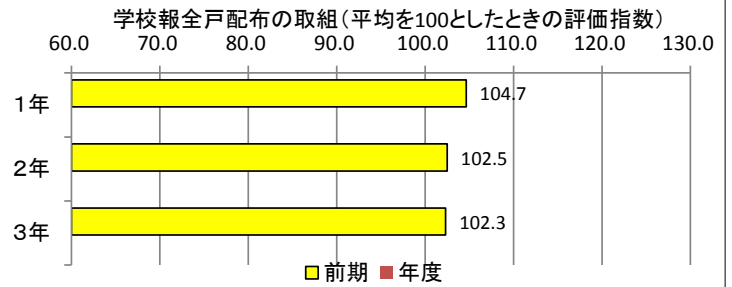
(25) 防災活動や地域行事への積極的な参加 【教職員の評価】(評価平均 3.9)



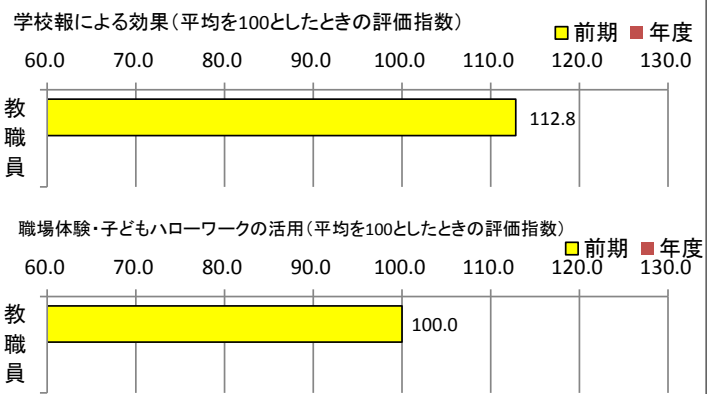
○生徒アンケート全26項目 □保護者アンケート全19項目 ■教職員アンケート全32項目

【生徒の評価】

(評価平均 1年4.5 2年4.1 3年4.4)



【教職員の評価】(評価平均 3.9)



◎子どもハローワークの参加延べ人数 76人参加(H30年度は52人)

【地域の方々等が参加した諸行事と人数】

防災会議(7/2)	AED講習会(8/5)	地域防災活動(8/4)
町内会長等 23名	生徒51名、保護者・地域 1名	地域・保護者等 155名